

<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信目標は、過去実績を踏まえて上方修正したが、それをも上回る勢いで発信に取り組んでいる。 ● 本年前半は、市長が OIH のイベントに登壇し、また初の海外出張にサンフランシスコ市、シリコンバレーを訪問するなど、OIH 認知度向上や本市のベンチャー支援を重視する姿勢を発信することができた。 ● アウトカムも目標達成に向けて堅調であるが、これが持続できるよう引き続き様々な機会を通じて新規開拓に取り組む。 ● 地域間連携の一環として、周辺の自治体と広報協力関係を構築し、大阪市以外のスタートアップ等に OIH の取組みを知っていただける機会を増やしている。 ● 海外との連携事業を下期は多く控えており、英語での PR を強化が必須と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部団体との共催イベントの誘致に成功しており、イベント数、イベント参加者数ともに順調。イベント開催数は、上半期ですでに年間計画数を超えている。 ● 大阪ハッカーズクラブの会員数は前年度目標に達しなかったが、今年度は比較的順調に伸びている。これを維持するため、会員のメリットを感じてもらえるよう支援等を充実させていく必要がある。 ● ベンチャーコミュニティ、Code for Osaka 等新たに誘致したコミュニティとの関わりからプロジェクト創出につなげる取り組みも必要。 ● 「始動」メンバーとの連携により、これまで手薄だった大企業内部でのイノベーション創出につながる事が期待できるが、OIH がさらにどのような支援を行えるかが課題。 ● IT エンジニアが属するコミュニティとハッカソンを実施した。多数のエンジニアを取り込む好機であり、OIH への誘致をめざしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業家人材を増やすため今年度から開始した、学生等を対象とした教育事業(ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム)等において、プロジェクトに取り組むチームが生まれている。事業化に至るよう適切なタイミングで適切なフォローを継続するよう努める。 ● 今年は、上期は深セン、下期はフランス、オランダ等との共催でピッチイベントを開催することとなり、海外に挑戦するベンチャー、海外から本市に来るベンチャーを増やしていきたい。 ● 別委託事業 第1期シードアクセラレーションプログラムに参加した10社は、4か月の支援により資金獲得や事業プランの改善等の成果があり、今年度のプロジェクトとしてカウントする予定である。 	
-------------	---	--	--	--